

<令和3年度 運営推進会議における評価>

【事業所概要】

法人名	一般社団法人 横浜市都筑区医師会	事業所名	都筑区医師会ナーシングホーム
所在地	(〒 224- 0015 ) 横浜市都筑区牛久保西 1-20-21		

【事業所の特徴、特に力を入れている点】

《当事業所のケアの理念》

利用者・ご家族の幸せの実現のために「その人の生きるを支える ～寄り添い・理解し・尊重する～」を目指しています。

《特色》

- ・平均要介護度 4.5 で医療機器を使用している方、がんや非がんのターミナル期の看取りなど、医療依存度の高い方々が多いため、看護師の人数を充実させ、利用者・家族が安心して利用できるように努めています。
- ・介護と看護の連携を高めて、自立した専門職の育成を目指しています。

【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦 2022 年 3 月 7 日	従業者等自己評価 実施人数	( 22 ) 人	※管理者を含む
----------------	-------------------	------------------	----------	---------

【運営推進会議における評価の実施概要】

実施日	西暦 2022 年 3 月 25 日～4 月 16 日 (書面会議)	出席人数 (合計)	( 8 ) 人	※自事業所職員を含まず
出席者 (内訳)	<input type="checkbox"/> 自事業所職員 ( 0 人) <input type="checkbox"/> 市町村職員 ( 1 人) <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター職員 ( 1 人) <input type="checkbox"/> 地域住民の代表者 ( 1 人) <input type="checkbox"/> 利用者 ( 0 人) <input type="checkbox"/> 利用者の家族 ( 0 ) <input type="checkbox"/> 知見を有する者 ( 5 人) <input type="checkbox"/> その他 ( 0 人)			

■ 前回の改善計画の進捗評価

項目	前回の改善計画	実施した具体的な取組	進捗評価
<p>I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)</p>	<p><u>1</u>について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・看多機事業の地域における役割を見やすい位置に掲げる</li> <li>・看多機事業について、年1回は全員に説明する。</li> </ul> <p><u>3.4</u>について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・育成計画について新任にヒアリングを行い、修正する</li> </ul> <p><u>10.</u>について</p> <p>具体的な災害を想定した訓練の実施、動けるマニュアルにする</p>	<p><u>1</u>について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務所スペースを広げた壁の見やすいところに掲示したが、にも関わらず職員評価にばらつきがあるため、質問の主旨を説明した。</li> <li>・看多機の役割の研修会を開催し伝えた。</li> </ul> <p><u>3.4</u>について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒアリングができず、修正できなかった。</li> </ul> <p><u>10.</u>について</p> <p>コロナ禍により、災害を想定した訓練は行えなかった。</p>	<p><u>1</u>について</p> <p>役割を担えているかを職員は評価しており、役割を十分に担えていないと考えている職員が少なくないと思われる。</p> <p><u>3.4</u>について</p> <p>今年度の改善計画を次年度に持ち越す。</p> <p><u>10.</u>について</p> <p>今年度の改善計画を次年度に持ち越す。</p>
<p>II. サービス提供等の評価</p> <p>1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)</p>	<p><u>11～18</u>について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員が、利用者の病状や希望の把握など意識が持てるように介護職員も情報収集し、計画に携わる。</li> </ul> <p><u>12</u>について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症ケアについて実践に繋がる研修</li> </ul>	<p><u>11～18</u>について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護師からの促しを行い、看多機計画に生活面の実施計画を追加した。</li> </ul> <p><u>12</u>について</p>	<p><u>11～18</u>について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現状、介護職からの担当制での積極的な計画への参加は難しいと思われるため、カンファレンスや申し送り等から介護職の意見を把握し、看護師が反映するのが現実てきたと思った。</li> </ul> <p><u>12</u>について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も継続し、認知症ケアの実践能力を高めていく必要がある</li> </ul>

	<p>会の開催をする</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1～2名は、認知症介護実践者研修を受講してもらう</li> </ul> <p><u>27</u>について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・予後及び死ぬまでの経過を丁寧に説明できるよう、ツールを使って学びを深める</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症のケアについての研修会は実施できた。</li> <li>・リーダー1名認知症介護実践者研修を受講できた。</li> </ul> <p><u>27</u>について</p> <p>5名の看取りをしたが、ツールを使った説明の実践はできなかった</p>	<p><u>27</u>について</p> <p>具体的なツールの提示をしなかったため、できなかった。次年度は、看取り期の在宅療養サポートマップを活用したい。</p>
2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)	<p><u>31～33</u>について</p> <p>多機能であるため職員全員が、外部の専門職とかかわることが少ないため、運営推進会議に役職だけでなく交互に出席し、運営会議の役割や外部への発信の体験をする。</p>	<p><u>31～33</u>について</p> <p>業務が多忙となり、通常参加していたメンバーも最小限の参加になる状況で、新しいメンバーの参加促しまで、できなかった。</p>	<p><u>31～33</u>について</p> <p>コロナ禍もあり、外部との関りは、更に減ったと感じている。今年度の計画を次年度に持ち越し職員に外部との関りを経験してもらいたい。</p>
3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画 (評価項目 32～41)	<p><u>1</u>について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安心して暮らせるまちづくりとして、ACPの研修会を企画開催する</li> </ul>	<p><u>1</u>について</p> <p>ACPの研修会を企画開催した</p>	<p><u>1</u>について</p> <p>ACPに必要な性は理解できたと思われるが、ACPにおける事業所としての地域での役割までは落とし込めなかった。次年度繋げたい。</p>
III. 結果評価 (評価項目 42～44)	<p><u>42・43</u>について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の目標達成のために、職員の業務負担が集中しないようにケアマネや常勤看護師を雇用し、サービス量の確保を行う。</li> </ul>	<p><u>42・43</u>について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・給仕はしていたが、非常勤看護師1名と介護職1名の雇用はできたが、ケアマネと常勤看護師の雇用はできず、サービス量の確保を十分に確保できなかった。但し、法人の訪問看護と訪問介護とで一体的な運営ができるように体制づくりを</li> </ul>	<p><u>42・43</u>について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・慢性的に人手不足は続いており、雇用も困難であるため法人内での一体的な運営を強化していく必要がある。</li> </ul>

		進めてきた。	
--	--	--------	--

※「前回の改善計画」および「実施した具体的な取組」は事業所が記入し、「進捗評価」は自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 今回の「評価結果」および「改善計画」

項目		評価結果	改善計画
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)		<u>1</u> について 項目を担えているかを職員は評価しており、役割を十分に担えていないと考えている職員が少なくないと思われる。 <u>3.4</u> について 今年度の改善計画を次年度に持ち越す。 <u>10.</u> について 今年度の改善計画を次年度に持ち越す。	<u>1</u> について ・看多機事業の目的、期待されている役割については、研修会等で伝え、カンファレンスや面接で確認する。  <u>3.4</u> について ・育成計画について新任にヒアリングを行い、修正する <u>10.</u> について 具体的な災害を想定した訓練の実施、動けるマニュアルにする
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)	<u>11～18</u> について ・現状、介護職からの担当制での積極的な計画への参加は難しいと思われるため、カンファレンスや申し送り等から介護職の意見を把握し、看護師が反映するのが現実てきたと思っ た。 <u>12</u> について ・今後も継続し、認知症ケアの実践能力を高めていく必要がある  <u>27</u> について 具体的なツールの提示をしなかったため、できなかった。次年度は、看取り期の在宅療養サポートマップを活用したい。	<u>1～18</u> について ・職員が、利用者の病状や希望の把握など意識が持てるように介護職員も情報収集し、計画に携わる。  <u>12</u> について ・認知症ケアについて実践に繋がる研修会の開催をする ・1～2名の職員、認知症介護実践者研修の受講を促す  <u>27</u> について ・予後及び死ぬまでの経過を丁寧に説明できるよう、「看取り期の在宅療養サポートマップ」等を活用し学びを深め、実践する
	2. 多機関・多	<u>31～33</u> について	<u>31～33</u> について

	職種との連携 (評価項目 28～31)	コロナ禍もあり、外部との関りは、更に減ったと感じている。今年度の計画を次年度に持ち越し職員に外部との関りを経験してもらいたい。	多機能であるため職員全員が、外部の専門職とかかわることが少ないため、運営推進会議に役職だけでなく交互に出席し、運営会議の役割や外部への発信の体験をする。
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 32～41)	<u>1</u> について ACP に必要性は理解できたと思われるが、ACP における事業所としての地域での役割までは落とし込めなかった。次年度繋げたい。	<u>1</u> について ・支援者として、利用者の ACP 支援ができるように支援事例などの研修会を開催し、理解を深める
III. 結果評価 (評価項目 42～44)		<u>42・43</u> について ・慢性的に人手不足は続いており、雇用も困難であるため法人内での一体的な運営を強化していく必要がある。	<u>42・43</u> について ・ケアマネや常勤看護師を雇用をし、訪問看護や訪問介護の職員との一体的な運営を行う。

※自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 評価表 [事業所自己評価・運営推進会議における評価]

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	おおよ そで きてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
<b>I 事業運営の評価 [適切な事業運営]</b>							
<b>(1) 理念等の明確化</b>							
① 看護小規模多機能型居宅介護の特徴を踏まえた理念等の明確化とその実践							
1	○ サービスに求められる「①医療ニーズの高い利用者の在宅生活の継続支援」、「②在宅での看取りの支援」、「③生活機能の維持回復」、「④家族の負担軽減」、「⑤地域包括ケアへの貢献」を	6	16			特になし	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ ①～⑤の全てを含む理念等がある場合は「よくできている」</li> <li>✓ ①～⑤の一部を含む理念等が掲げられている場合は、「おおよそできている」もしくは「あまりできていない」</li> <li>✓ 独自の理念等が明確化されてい</li> </ul>
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・「おおよそできている」が一番多いが、理念等は実際掲げて、掲示してあるため評価は、「よくできている」とした。 ・胃ろう、中心静脈栄養など医療ケアが					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	含む、独自の理念等を掲げている	必要な利用者に、介護士、看護師、医師らと協力し、支援している。 ・家族の状況に応じてサービス内容を変更している。 ・⑤はあまり実施できていない					ない場合は「全くできていない」
2	○ サービスの特徴および事業所の理念等について、職員がその内容を理解し、実践している	8	12	1		特になし	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「サービスの特徴および理念等を踏まえた実践」の充足度を評価します</li> <li>✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」</li> </ul>
<b>(2) 人材の育成</b>							
① 専門技術の向上のための取組							
3	○ 職員との話し合いなどを通じて、各職員の中長期的な育成計画などを作成している	3	12	6	1	特になし	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「育成計画の作成」の状況について、充足度を評価します</li> <li>✓ すべての職員について育成計画などを作成している場合は「よくできている」</li> <li>✓ 育成計画などを作成していない場合は「全くできていない」</li> </ul>
4	○ 法人内外の研修を受ける機	5	10	5	2	特になし	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「専門技術の向上のための日常</li> </ul>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	会を育成計画等に基づいて確保するなど、職員の専門技術の向上のための日常業務以外での機会を確保している	<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・コロナ禍であり、数少ない研修にも参加できなかった。 ・一年間の研修計画に基づき、定期的に学ぶ機会を確保している。 ・研修の案内がよくある					業務以外での「機会の確保」について、充足度を評価します
② 介護職・看護職間の相互理解を深めるための機会の確保							
5	○ 介護職・看護職・介護支援専門員の間で、職員が相互に情報を共有する機会が、確保されている	10	11	1		特になし	✓ 「情報を共有する機会」の充足度を評価します ✓ 例えば「利用者等の具体的なケースについて話し合うための、定期的なカンファレンスの開催」などが考えられます
③ 組織体制の構築							
① 運営推進会議で得られた意見等の反映							
6	○ 運営推進会議で得られた要望、助言等を、サービスの提供等に反映させている	4	13	2		特になし	✓ 「得られた要望・助言等のサービスへの反映」の視点から、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 駐車による苦情について、地域住民への理解を促すために町内会やマンションの自治会に働きかけたらいいのではとアド					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
		バイスもらったが、具体的な活動には 繋げられなかったが、次年度、お願いし ていきたい。					
<b>② 職員が安心して働くことができる就業環境の整備</b>							
7	○ 職員が、安心して働くこと ができる就業環境の整備に 努めている	6	14	1	1	特になし	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「職員が、安心して働くことので きる就業環境」の充足度を評価し ます</li> <li>✓ 例えば、「職員の能力向上の支 援」、「精神的な負担の軽減のため の支援」、「労働時間への配慮」な どが考えられます</li> </ul>
<b>(4) 情報提供・共有のための基盤整備</b>							
<b>① 利用者等の状況に係る情報の随時更新・共有のための環境整備</b>							
8	○ 利用者等の情報について、 随時更新を行うとともに、 必要に応じて職員間で迅速 に共有できるよう工夫され ている	9	12			特になし	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「情報の随時の更新」と「職員間 で迅速に共有するための工夫」の 2つの視点から、充足度を評価し ます</li> </ul>
<b>(5) 安全管理の徹底</b>							



番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
① 各種の事故に対する安全管理							
9	○ サービス提供に係る利用者等および職員の安全確保のため、事業所においてその具体的な対策が講じられている	5	15	1		特になし	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「各種の事故に対する予防・対策」の充足度を評価します 対策が求められる事項としては、例えば「医療・ケア事故の予防・対策」、「交通安全」、「夜間訪問時の防犯対策」、「個人情報保護」などが考えられます</li> </ul>
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・記録は ipad を携帯しているが、クラウドでの情報入力のため個人情報保護の対応している。</li> <li>・インシデント報告と情報の共有し再発予防に努めている。</li> <li>・コロナ禍において感染防止対策のマニュアルの更新し感染拡大に努めている</li> </ul>					
② 災害等の緊急時の体制の構築							
10	○ 災害などの緊急時においても、サービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関の間で、具体的な対応方針が共有されている	8	9	5		特になし	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「緊急時におけるサービス提供のための備え」について、充足度を評価します</li> <li>✓ 例えば、「安否確認方法の明確化」、「連絡先リストの作成」、「医療材料などの確保」、「災害時ケアのマニュアル化」などが考えられます</li> </ul>
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 職員「安否確認方法」は、マメールで一斉配信し各々から返事をもらう。利用者は、トリアージリストを作成しており順番に確認すると決めている。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急時の「連絡先リストの作成」してある。</li> <li>・具体的な対応方針については、全職員への共有は十分でない。</li> </ul>					
<b>II サービス提供等の評価</b>							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
<b>1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供</b>							
<b>(1) 利用者等の状況把握及びアセスメントに基づく計画の作成</b>							
① 利用者等の 24 時間の暮らし全体に着目した、介護・看護両面からの一体的なアセスメントの実施							
11	○ 在宅時の利用者の生活状況や家族等介護者の状況等を含む、利用者等の 24 時間の暮らし全体に着目したアセスメントが行われている	8	14			特になし	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「家族等も含めた 24 時間の暮らし全体に着目したアセスメント」の充足度を評価します</li> <li>✓ ケアが包括的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、家族等も含めた 24 時間の暮らし全体に着目したアセスメントが必要となります</li> </ul>
12	○ 介護職と看護職がそれぞれの視点から実施したアセスメントの結果が、両職種の間で共有されている	2	16	4		特になし	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「介護職と看護職間でのアセスメント結果の共有」について、充足度を評価します</li> <li>✓ 介護・看護の両面から行われたアセスメントの結果は、その後のつき合わせなどを通じて、両職種で共有されることが望ましいといえます</li> </ul>
② 利用者等の「尊厳の保持と自己実現の達成」を重視した計画の作成							
13	○ 家族を含む利用者等の考えを把握するとともに、その	9	13			特になし	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「家族等の考えを含めた計画の作成」について、充足度を評価し</li> </ul>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	目標の達成に向けた計画が作成されている	<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・家族看多機計画やケアプランに反映させている。					利用者のみでなく、家族等の考えを適切に把握するとともに、その考えを含めた計画を作成することは重要であるといえます
14	○ 利用者の有する能力を最大限に活かした、「心身の機能の維持回復」「生活機能の維持又は向上」を目指すことを重視した計画が作成されている	6	4	2		特に本人らしい生活の自立は大切な事だと私もこの頃になり思うようになりました。	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「利用者の有する能力を活かした、心身機能の維持回復を重視した計画の作成」について、充足度を評価します</li> <li>✓ 「利用者が尊厳を持って、その有する能力に応じ地域において自立した日常生活を営む」ために、必要な視点であるといえます</li> </ul>
③ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画の作成							
15	○ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画が作成されている	7	15			特になし	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「状況変化の予測」と「リスク管理」の2つの視点から、充足度を評価します</li> <li>✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、特に看護職による予後予測などを踏まえて計画を作成することが重要です</li> </ul>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
<b>(2) 利用者等の状況変化への迅速な対応とケアマネジメントの実践</b>							
① 継続したアセスメントを通じた、利用者等の状況変化の早期把握と計画への反映							
16	○ サービス提供を通じた継続的なアセスメントにより、利用者等の状況変化を早期に把握し、計画への適宜反映が行われている	7	1 3	2		特になし	✓ 「早期の把握」と「計画への適宜反映」の2つの視点から、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・利用者の状態変化の情報を早期に皆が把握し、計画に反映するよう努めている 看多機計画は、最低1回/月に評価し反映している。 ・食事形態等、評価ができていないことがある。					
② 居宅への訪問を含む、利用者等の暮らし全体に着目したアセスメントの実施と計画への反映							
17	○ 通い・泊まりの利用に過度に偏らないよう、適時適切に利用者宅を訪問することで、家族等を含めた居宅での生活状況の変化を継続的に把握している	7	1 3	2		特になし	✓ 「訪問による、家族等を含めた居宅での生活状況の変化の継続的な把握」という視点から、充足度を評価します ✓ 訪問によるケアの提供は、家族等を含めた居宅での生活状況を把握するためにも重要です
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・訪問を増やし、偏らないように努めているが、家族の状況により難しいことも多い					
③ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等に関する関係多職種との情報共有							
18	○ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等について、主治医など、事業所内外を含む関係多職種と情報が共有	9	1 2	1		特になし	✓ 「利用者等の状況変化や目標の達成状況等の事業所内外を含む関係多職種との情報共有」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・主治医には、状況変化時、電話や各医					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	されている	師の連絡ツールなどにより、早急に報告し共有している。 ・兼務職員にもスマイル伝言やグループLINEで共有している					
<b>(3)介護職・看護職の協働による一体的なサービスの提供</b>							
① 介護職と看護職の相互の専門性を生かした柔軟なサービスの提供							
19	○ 介護職と看護職のそれぞれの専門性を最大限に活かしながら、柔軟な役割分担が行われている	9	10	3		特になし	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「介護職と看護職の専門性を活かした役割分担」について、充足度を評価します</li> <li>✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護では、効果的・効率的なサービス提供のために、各々の専門性を活かした役割分担や、業務の状況等に応じた柔軟な役割分担を行うことが重要です</li> </ul>
20	○ 利用者等の状況について、介護職と看護職が互いに情報を共有し対応策を検討するなど、両職種間の連携が行われている	11	11			特になし	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「介護職と看護職の情報共有および対応策の検討」について、充足度を評価します</li> </ul>
② 看護職から介護職への情報提供および提案							
21	○ 看護職から介護職に対して、疾病予防・病状の予後予	5	17			特になし	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「看護職の専門性を活かした、介護職への情報提供や提案等」につ</li> </ul>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	測・心身の機能の維持回復 などの観点から、情報提供 や提案等を行っている	[具体的な状況・取組内容] ・看多機計画や日々のケアを通して伝え ているが、十分でない。					いて、充足度を評価します ✓ このような情報提供や提案等は、 看護職の専門性を活かした役割 の1つとして期待されます
<b>(4)利用者等との情報及び意識の共有</b>							
① 利用者等に対するサービスの趣旨及び特徴等についての情報提供							
22	○ サービスの趣旨および特徴 等について、分かりやすく 説明し、利用者等の理解を 得ている	6	1 5	1		特になし	✓ 「利用者等の理解」について、充 足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] ・利用料が高額になるため、利用開始時 に理解をしてもらっている。					
② 利用者等への「在宅での療養生活」に係る指導・説明							
23	○ 作成した計画の内容や在宅 での療養生活の継続に向け て留意すべき点等につい て、分かりやすく説明し、利 用者等の理解を得ている	7	1 3	1		特になし	✓ 「利用者等の理解」について、充 足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] ・毎月、看多機計画書を利用者家族に渡 して説明している。					
24	○ 利用者等が行う医療処置や 医療機器の取り扱い方法、 家族等が行うケアの提供方 法等について、分かりやす く説明し、利用者等の理解 を得ている	8	1 3	1		特になし	✓ 「利用者等の理解」について、充 足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] ・基本的には、利用者家族にも自己管理 ができるように説明している。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
③ 重度化した場合や終末期における対応方針の、利用者等との相談と共有							
25	○ 利用者本人（意思の決定・表示ができない場合は家族等）の希望や意向を把握し、サービスの提供に反映している	7	15			特になし	✓ 「サービス提供への適切な反映」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] ・利用者家族と相談して、希望や意向を聞き、可能な会切りサービスに反映するように努めている					
26	○ 在宅生活の継続の可否を検討すべき状況を予め想定し、その際の対応方針等について、利用者等と相談・共有することができる	7	13	1		特になし	✓ 「将来に発生し得る様々なリスクを想定した上での、対応策の検討と共有」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] ・ケアマネや看護師が、主治医と連携し 予後や支援内容等は説明し、記録している。					
27	○ 終末期ケアにおいて、利用者等に適切な時期を見計らって、予後および死までの経過を丁寧に説明し、説明した内容や利用者等の意向等を記録として残している	9	12	1		宜しく申し上げます。	✓ 「予後および死までの経過の説明」と「記録の有無」の2つの視点から、充足度を評価します ✓ 「丁寧に説明し」且つ「記録として残している」場合は「よくできている」
<b>2. 多機関・多職種との連携</b>							
<b>(1) 病院・施設等との連携による円滑で切れ目のないケアの提供</b>							
① 病院・施設等との連携や情報共有等による、在宅生活への円滑な移行							
28	○ 病院・施設等との連携・情報共有等により、病院・施設等	11	11			特になし	✓ 「利用者の円滑な在宅生活への移行」について、充足度を評価し

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	からの、利用者の円滑な在宅生活への移行を支援している	<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・退院カンファレンスの参加や電話、サマリーでの情報共有し円滑な移行ができるようにしている。					ます ✓ 例えば、「退院・退所前のカンファレンスへの参加」、「利用者等に係る病院・施設等との継続した情報共有」などの取組が考えられます
② 入院・入所の可能性がある利用者についての、主治医等との対応方針の共有							
29	○ すべての利用者について、緊急時の対応方針等を、主治医等と相談・共有することができている	8	14			特になし	✓ 「緊急時の対応方針等の主治医等との相談・共有」を評価します ✓ 利用者の状態変化・家族等介護者の状況の変化など、実際に発生する前の段階から予め対応方針等を主治医等と相談・共有しておくことが重要です
③ 地域の医療機関等との連携による、急変時・休日夜間等に対応可能な体制の構築							
30	○ 地域の医療機関等との連携により、休日夜間等を含めて、すべての利用者について、急変時に即座に対応が可能な体制が構築されている	8	12			特になし	✓ 「即座な対応が可能な体制の構築」について、充足度を評価します
<b>(2) 多職種との連携体制の構築</b>							
① 運営推進会議等における、利用者のために必要となる包括的なサポートについての、多職種による検討							
31	○ 運営推進会議等において、	7	10	3	1	特になし	✓ 「利用者のために必要となる、介



番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	利用者のために必要と考えられる包括的なサポートについて、民生委員・地域包括支援センター・市区町村職員等への情報提供や提案が行われている	<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・運営推進会議メンバーとして、自治会長と区役所職員にも参加してもらっている。今年度は、訪問時の大型マンションにおける駐車場の確保が難しいことの情報共有をした。					護保険外のサービスやインフォーマルサポート等を含めたケアの提供について、多職種とともに検討・支援を行っていくなどの取組の充足度を評価します ✓ そのような取組をしたいことがない場合は「全くできていない」 ✓ 民生委員のみでなく、自治会長や町会長などの住民代表も対象です
<b>3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画</b>							
<b>(1) 地域への積極的な情報発信及び提案</b>							
① サービスの概要及び効果等の、地域に向けた積極的な情報の発信							
32	○ 運営推進会議の記録について、誰でも見ることができるような方法での情報発信が、迅速に行われている	1 2	6	3	1	特になし	✓ 「誰でも見ることができる方法での情報発信」と「迅速な情報発信」の2つの視点から、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・ホームページにアップしており、外部からも閲覧できる。また、職員へも申し送りノートに挟み、閲覧してもらうようにしている					
33	○ サービスの概要や地域において果たす役割等について、正しい理解を広めるため、地域住民向けの積極的な啓発活動が行われている	1	1 0	9	2	地域のための施設ですが、専門性も高く、医療依存度も高いため大変だと思います。	✓ 「積極的な啓発活動」について、評価する項目です ✓ 例として、「チラシ等の配布」や「地域説明会の実施」などの取組が考えられます。
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・今年度は地域住民への広報はできなかったが、新任ケアマネ研修会では、看多機の説明は行った。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あま り で き て い な い	全 く で き て い な い		
							✓ 利用者や職員の確保のみを目的とした活動等は除きます
<b>(2) 医療ニーズの高い利用者の在宅での療養生活を支える、地域拠点としての機能の発揮</b>							
① 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を含む、地域への訪問看護の積極的な提供							
34	○ 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を対象とした訪問看護を積極的に実施している	4	7	2	7	これはあまり必要ないと思う。現状でOK	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「指定訪問看護事業所の指定を併せて受けている事業所」のみが対象です。該当しない場合は、実施状況欄は無記入で、[具体的な状況・取組内容]欄に「指定なし」と記入してください</li> <li>✓ 「登録者以外を対象とした訪問看護」を実施していない場合は、「全くできていない」</li> <li>✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します</li> </ul>
② 医療ニーズの高い要介護者の積極的な受け入れ							
35	○ 「たん吸引」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている	17	5			特になし	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください</li> <li>✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」</li> </ul>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あま り で き て い な い	全 く で き て い な い		
		いるが、夜間帯等はヘルパーによる吸引 で対応している					✓ 「あまりできていない」～「よく できている」は、その「積極性」 の視点から、充足度を評価します
36	○ 「人工呼吸器」を必要とする 要介護者を受け入れること ができる体制が整っており、積極 的に受け入れている	14	7	1		特になし	✓ 「積極的な受け入れ」について、 充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」 が整っていない場合は、「全くで きていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よく できている」は、その「積極性」 の視点から、充足度を評価します
37	○ 「看取り支援」を必要とする 要介護者を受け入れること ができる体制が整っており、積極 的に受け入れている	17	5			特になし	✓ 「積極的な受け入れ」について、 充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」 が整っていない場合は、「全くで きていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よく できている」は、その「積極性」 の視点から、充足度を評価します
<b>(3) 地域包括ケアシステムの構築に向けての、まちづくりへの参画</b>							
① 行政の地域包括ケアシステム構築に係る方針や計画の理解							
38	○ 管理者および職員が、行政 が介護保険事業計画等で掲	6	14	2			✓ 「内容等の理解」について、その 充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	げている、地域包括ケアシステムの構築方針や計画の内容等について理解している	<u>[具体的な状況・取組内容]</u>				都筑区では、令和4年3月に都筑区アクションプランを策定した。	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 地域包括ケアシステムの構築にあたっては、その中で各々が果たすべき役割を、明確に理解することが必要であるといえます</li> <li>✓ 地域包括ケアシステムの構築方針や計画などが無い場合は、「全くできていない」</li> </ul>
② サービス提供における、(特定の建物等に限定しない) 地域への展開							
39	○ サービスの提供エリアについて、特定の集合住宅等に限定せず、地域に対して積極的にサービスを提供している	10	12			特になし	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「特定の集合住宅等に限定しない、地域への積極的な展開」について、充足度を評価します</li> <li>✓ 看護小規模多機能型居宅介護は、特定の集合住宅等に限定することなく、地域全体の在宅療養を支える核として機能していくことが期待されます</li> <li>✓ 特定の集合住宅等のみを対象としている場合は「全くできていない」</li> </ul>
③ 安心して暮らせるまちづくりに向けた、関係者等への積極的な課題提起、改善策の検討等							
40	○ 介護・看護の観点から、地域の関係者に対し、必要に応じて課題提起や改善策の提案等が行われている	1	9	11	1	必要ならば行うという現状の考え方で良いと思う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「課題提起や改善策の提案等の取組」について、その充足度を評価します</li> <li>✓ 今後は、サービスの提供等を通じ</li> </ul>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
							<p>て得た情報や知見、多様な関係者とのネットワーク等を活用し、必要となる保険外サービスやインフォーマルサービスの開発・活用等、利用者等のみでなく地域における課題や改善策を関係者に対して提案していくなどの役割も期待されます</p> <p>✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」</p>
41	○ 家族等や近隣住民などに対し、その介護力の引き出しや向上のための具体的な取組等が行われている	2	9	10	1	<p><b>地域住民の支援は、今は余裕がなく、これからですね。</b></p>	<p>✓ 「家族等や近隣住民に対する、介護力の引き出しや向上のための取組」について、その充足度を評価します</p> <p>✓ 今後は、利用者への家族等や近隣住民の関わりを促しながら、関係者全員の介護力を最大限に高めることにより、在宅での療養生活を支えていくための環境を整えていくなどの役割も期待されます</p> <p>✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」</p>
		<p><u>[具体的な状況・取組内容]</u>            家族への介護方法の指導は行っているが、地域住民に対する活動は行っていない。</p>					

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
<b>Ⅲ 結果評価</b>				
① 計画目標の達成				
42	○ サービスの導入により、利用者ごとの計画目標が達成されている	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者について、達成されている</li> <li>2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている</li> <li>3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている</li> <li>4. 利用者の1/3には満たない</li> </ol> <p><u>[具体的な状況・取組内容]</u> 職員の評価は、1が12名、2が9名、3が1名</p>	皆さん、良く努力していると思う。	✓ 「計画目標の達成」について、評価します
② 在宅での療養生活の継続に対する安心感				
43	○ サービスの導入により、利用者およびその家族等において、医療が必要な状況下においての在宅での療養生活の継続に対し、安心感が得られている	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者について、達成されている</li> <li>2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている</li> <li>3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている</li> <li>4. 利用者の1/3には満たない</li> </ol> <p><u>[具体的な状況・取組内容]</u> 職員の評価は、1が14名、2が8名</p>	皆さん、良く努力していると思う。	✓ 在宅での看取りを除く、全ての利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「医療が必要な状況下においての、在宅での療養生活の継続に対する安心感」について、評価します
44	○ サービスの導入により、在宅での看取りを希望する利	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者について、達成されている</li> <li>2. 利用者の2/3くらいについて、達成さ</li> </ol>	皆さん、良く努力していると思う。	✓ 在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等に対し、サービス

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
	利用者およびその家族等において、在宅での看取りに対する安心感が得られている	れている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない 5. 看取りの希望者はいない <u>[具体的な状況・取組内容]</u> 職員の評価は、1が15名、2が5名		の提供により実現された「在宅での看取りに対する安心感」について、評価します ✓ 在宅での看取りは、事業所内（通い・泊まり）での看取りを含みます ✓ 在宅での看取りの希望者がいない場合は、「5. 看取りの希望者はいない」